

教育の情報化評価・助言会議（第3回）議事概要

- . 日 時：平成13年6月21日（木）14:00～15:50
- . 場 所：内閣府本府庁舎3階特別会議室
- . 出席者：坂元昂議長、大島克己委員、清水康敬委員、田村順一委員、長屋龍人委員、吉田千之輔委員
（政府側）
内閣官房、文部科学省、総務省、経済産業省
- . 議 題：1．開会
2．ミレニアム・プロジェクト「教育の情報化」評価報告書(案)について
3．質疑応答
4．閉会
- . 議事経過：1．議長挨拶
2．内閣官房より、評価報告書(案)を読み上げ
3．関係省庁より、評価報告書(案)に関連して発言
4．委員との質疑応答
各委員の発言要旨は以下のとおり

長屋委員

次年度以降の展望について、単に「教育の情報化」のみならず「教育環境」というようなことも含めた情報化全般を視野に入れて展開させていった方がいい。せっかく整備されたインフラは、地域と相互に連携することによって、もっと大きな効果が期待できるものである。子どもたちの生活の資質をよくするという観点を構想として盛り込んでいった方がいい。

吉田委員

この報告書（案）は、いろいろなことに配慮してよく書いてあるが、メリハリがやや消えてしまっている感じがする。ポイントはもう少し絞った方がわかりやすいかもしれない。

清水委員

「モバイルインターネットの活用」については、教育・学習に活用するための開発・普及であるというところにポイントがあるので、そのように表現を変えていただいた方がいい。

「マルチメディア型ヘルプディスク」を利用できる人は、ヘルプが必要ない人であ

る場合が多い。ヘルプデスクで重要なことは、先生が何をヘルプとして必要としているのかということをもまず明確にすること。

田村委員

アクセシビリティの問題に関して、ユニバーサル・デザインという方向性が社会全般に序々に浸透してきているが、どこが主体的にやっていくのかという問題は多く残っている。現状では、リハビリテーション工学や教育の分野の方々や我々現場の人間が細々と取り組んでいるところであり、この点についても何らかの将来的な方向性を示していただければ本当はありがたい。

家庭との連携という点については、これからは学校も開かれていくという形で進んでいくわけであるが、何かしら地域や保護者や様々な立場の人たちとのコミュニケーションというようなことをどこかに書くことはできないだろうか。

大島委員

教育情報ナショナルセンターと地域センターとの関係について、ある程度指針を示していくことが次年度以降必要。

吉田委員

校内 LAN の整備について、モデルケースを示すことが必要。また、校内 LAN が実際にどのように整備され、どれくらい使われているのか、データをとることも重要。校内 LAN の整備を進めようとする自治体に対しては、特に助成をするという考え方もある。

坂元座長

ミレニアム・プロジェクトの策定後に、世の中が急激に展開し、IT 基本法、e-Japan 戦略、e-Japan 重点計画、e-Japan2002 プログラムといったものがどんどん出てきている。ミレニアム・プロジェクト以外のこれらの動きと総合化した全体構想を明確化して、効果を上げるような前向きな対応をすることが必要。

清水委員

この報告書はこれでいいが、来年度の報告書のことを考えた場合、12 年度に重点を置いた評価というものはなかなか見えにくいという面が若干あるのではないかと思われる。